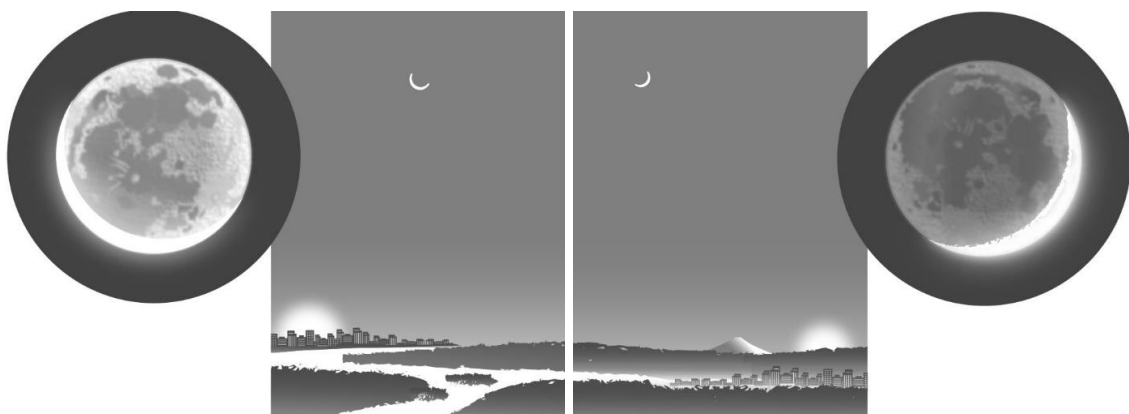


7 月の見え方と太陽

6年 組 名前 ()

朝方の細い月（二十七夜）も三日月も、球形をしている月の一部が光って見えます。



朝方、太陽がのぼるころに東の空に見える
細い月（二十七夜）

夕方、太陽がしずむころに南西の空に見える
三日月

【見つけよう】

上の写真を見比べて、朝方の月と夕方の月の似ているところを考えましょう。

朝方の細い月と夕方の三日月は、光っている向きはちがうけど、
形はよく似ている。

朝方の月と夕方の月の似ているところについて、不思議に思ったことや疑問に思ったことを
書きましょう。

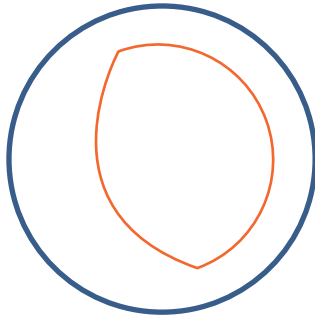
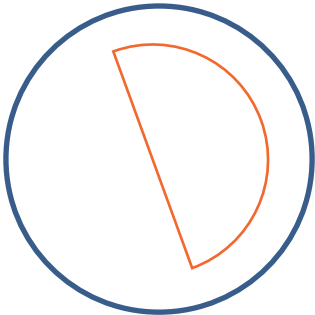
朝方の月と夕方の月は、どちらも光っている側に太陽がある。

見える形のちがう月でも、月の光っている側には、いつも太陽が
あるのか疑問に思った。

【はてな？】

問題

月の光っている側には、いつも太陽があるのだろうか。

7月の見え方と太陽 観察1		6年組 名前（ ）
【はてな？】 問題 月の光っている側には、いつも太陽があるのだろうか。		【観察1】 月と太陽が出ている日に、月の光っている側に太陽があるかを調べよう。
【予想を書こう】 月の光っている側にいつも太陽があるかどうかを予想しましょう。 どの月も光っている側に太陽があると思う。 ----- ----- -----		【結果を書こう】 最初と2～3日後に、月の形と位置、太陽の位置を調べて、観察カードに記録しましょう。 月や太陽の位置は、教科書158～159ページの方法で調べよう！   最初に観察した月 2～3日後に観察した月
(理由) 朝方の月や夕方の月は、どちらも光っている側に太陽があるから。		【結果から考えられることを書こう】 観察1の結果から、月の光っている側にいつも太陽があるかということについて、自分の予想が確かめられたかを考えましょう。 最初の観察も2日後の観察も、月の光っている側に太陽があったから、予想は確かめられたといえる。 最初の観察と2～3日後の観察では、月のどちら側に太陽があったかな？ 
【観察の方法を確認しよう】 月の光っている側にいつも太陽があるかどうか、自分の予想を確かめる方法を確認しましょう。 〈方法〉 ①記録用紙を横長につなげて、方位と高さを書き入れる。 ②観察する場所を決めて、目印となる建物などをかく。 ③月の形と位置、太陽の位置を記録する。 ④2～3日後の同じ時刻に、同じ場所で月と太陽を調べる。		【結果からわかった問題の答えを書こう】 結論 月の光っている側には、いつも太陽がある。 ----- -----
		【【広がる学び】】 明けゆくや二十七夜も三日の月 上の句は、松尾芭蕉が旅先の船の中で一夜を明かしたとき、夜明けの空にうかぶ細い月（二十七夜）を見て、まるで、夕方に見える三日月のようだと感じ、よんだ句といわれています。